

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
R302	社会科・公民科教育法Ⅱ /社会科・公民科教育法Ⅳ	3年	講義	2	寺内孝夫
授業概要 社会科・公民科教育法Ⅰの履修成果を踏まえて、中学校社会科公民的分野及び高等学校公民科を担当する教師に必要な力量の育成を目標とする。そのため、それぞれの内容構成と指導方法をはじめ授業構成論、学習指導論の講義・演習、事例に沿った学習指導案づくり、模擬授業の実施・分析、評価問題の作成等について、教育現場の様々な課題を見通しながら実践的力量の育成を目指した学修を進める。					
到達目標(学習の成果) 1 生徒の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 2 公民教育の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 3 中学校・高等学校において公民教育を担当する教師に必要な授業展開に関する理論と方法の修得のもと、学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 4 公民学習の成果を適切に評価する方法の基礎を修得するとともに、模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 5 公民教育における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組む力量を身に付けている。					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	公民的分野の内容と指導方法	公民カリキュラムの内容構成を概観するとともに、政治的・経済的な見方・考え方の育成を図る指導方法について考察する。 小中高における公民カリキュラム、政治・経済意識の発達、シティズンシップ教育			
2	公民的分野の授業構成と演習(情報機器及び教材の効果的な活用法)	公民的分野の授業構成を検討するため、単元計画・授業計画を作成し、情報機器及び教材の効果的な活用方法について考察する。 「環境教育」を事例とする授業計画、教材の開発と活用法			
3	公民的分野の学習指導と演習	公民的分野の学習活動として、「ディベート・討論」を実施する意義と課題について事例的に考察する。 ディベート指導の実際、実践事例の考察、多様な価値観の容認と意思決定			
4	公民的分野の学習指導案づくり	40分個別模擬授業を実施するための学習指導案を作成する。特に、終結部の役割、ねらい等について検討しその意義を認識する。 学習指導案に盛り込む事項、終結部の役割とねらい、本時のまとめと次時予告			
5	模擬授業の実施(40分授業)	終結部も含めた40分個別模擬授業を実施しながら、板書・発問・資料活用・評価等について体験的に学修する。 板書のポイント、発問のタイミング、資料の効果的提示、授業中の評価			
6	模擬授業の実施(40分授業) 模擬授業の授業分析と改善	終結部も含めた40分個別模擬授業を実施しながら、板書・発問・資料活用・評価等について体験的に学修するとともに、授業分析を通して、各自の課題を明確化する。 板書のポイント、発問のタイミング、資料の効果的提示、授業中の評価			
7	公民的分野の学習評価と評価方法	公民的分野の学習評価と評価方法について、評価基準にそった評価問題(40分模擬授業の内容を評価する)を作成する中で具体的に考察する。 評価の目的、評価の観点、評価の方法、評価結果の活用			
8	公民科の授業方法と授業構成	公民科の授業構成を検討するため、単元計画・授業計画を作成し、教材の活用方法について考察する。 「情報社会に生きる知恵」を事例とする授業計画、教材の開発と活用方法			
9	公民科の学習指導と演習	公民科の学習活動として、「シミュレーション・ゲーム」を活用する意義と課題について事例的に考察する。 「ひょうたん島問題」の指導事例、共感的理解と合理的解決			
10	公民科の学習指導案づくり	50分個別模擬授業を実施するための学習指導案を作成する。特に、授業計画を総合的に検討し、生徒にとってわかりやすい授業となるよう工夫する。 学習指導案に盛り込む事項、生徒にとって分かりやすい板書・資料・授業			

11	模擬授業の実施(50分授業)と授業分析(1)	総合的な50分個別模擬授業を実施しながら、板書・発問・資料活用・評価等について体験的に学修するとともに、授業分析を通して、各自の課題を明確化する。 板書のポイント、発問のタイミング、資料の効果的提示、授業中の評価
12	模擬授業の実施(50分授業)と授業分析(2)	総合的な50分個別模擬授業を実施しながら、板書・発問・資料活用・評価等について体験的に学修するとともに、授業分析を通して、各自の課題を明確化する。 板書のポイント、発問のタイミング、資料の効果的提示、授業中の評価
13	模擬授業の実施(50分授業)と授業分析(3)	総合的な50分個別模擬授業を実施しながら、板書・発問・資料活用・評価等について体験的に学修するとともに、授業分析を通して、各自の課題を明確化する。 板書のポイント、発問のタイミング、資料の効果的提示、授業中の評価
14	公民科の学習評価と評価方法	公民科の学習評価と評価方法について、評価基準にそった評価問題(50分模擬授業の内容を評価する)を作成する中で具体的に考察する。 評価の目的、評価の観点、評価の方法、評価結果の活用
15	社会科・公民科教育法Ⅱの学修のまとめ	社会科・公民科教育法Ⅱの学修の総括を通して、社会科教師として必要な基本的資質を確認するとともに、職業人として積極的に社会の発展に寄与しようとする意欲や態度を身につける。
準備学修(授業外の自己学修) 1 授業計画に示されているキーワードに沿って、準備学修を深めておくこと。特に、専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確実に調べておくこと。 2 各回の学習指導案づくり、模擬授業については、事前準備を実施し、講義時間内に完結するように学修しておくこと。 3 特に、各自の意見を表明する項目については、学修を深め、根拠を示しながら論理的な文でもって記載すること。		
成績評価の方法・基準(%表記) 筆記試験 70%(専門用語を使用し、根拠を示しながら論理的な文でもって解答すること。各自の意見を表明する際には、感想でなく、論理的に説明すること。) 模擬授業の発表内容 30%(ABC3段階評価)		
教科書 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 (平成20年3月告示 文部科学省) 新中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省) 中学校学習指導要領解説 社会編 (平成20年9月 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 公民編 (平成22年6月 文部科学省)		
参考書等 中学校教科書『新編 新しい社会 公民』(東京書籍) 高校教科書『現代社会』東京書籍 授業中にも適宜資料を配付する。		
履修上の注意・学修支援 1 出席確認をスムーズに行うため、指定された座席に着席する。 2 遅刻・早退等不在時間計10分以上は、受講時間確保上、出席したとは認められない。 3 全人教育及びキャリア教育の観点から、講義に際しては礼儀とけじめを重視し、講義の開始時・終了時には起立の上、受講者相互の挨拶を励行すること。 4 望ましい受講環境の維持のため、私語は厳に慎むこと。		
受講上の疑問や講義内容に関する質問がある場合は、講義前後に問い合わせると共に、オフィスアワーを積極的に活用すること。		